

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2893000261		
法人名	株式会社 ほのぼの		
事業所名	グループホームほのぼの		
所在地	兵庫県尼崎市神田南通2丁目50番地		
自己評価作成日	平成24年2月13日	評価結果市町村受理日	2012年5月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.hyogo-kai.go.com/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川日市中央町8-8-104		
訪問調査日	2012年3月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員一人一人が介護への思いを深くもち、日々向上を目指す環境である。またお客様への挨拶などの教育をしっかりとおり、施設全体が明るい場である。施設ではお庭があり、天気の良い日はお庭にて体操など運動ができる、また桜の木があり春にはお花見をしながらお食事ができる。町内会とも連携をもち日々、商店街にてご入居者様と共に買い物ができる環境である。職員関係も大変よく、悩み事や不安などがあれば話ができる場でありとても働きやすい施設だとの声も多く頂いている。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム「ほのぼの」は開設後約2年経過し、商店街にほど近いゆったりした敷地の2階建ての建物である。職員は身体拘束、高齢者虐待の基本をしっかり学び実践している。成年後見制度の活用については、講師の来訪も受けるので、施設長は事業所だけにとどまらず地域の町内会にも伝えたいと考えている。地域との関わりについては、老人会との交流も始まってきており、今後小中学校や隣接の町内会とも交流の機会をひろげていきたいとしている。商店街に近い人情味あふれた地域性を活かし「生きる力を沸きたたせる居場所を共に構築します」という「ほのぼの」のモットーの実現に向け、地域住民とともに取り組まれることは、地域の活性化ともなると思われる。今後の新たな取り組みを期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設玄関や各フロアーにて理念を掲示している。また、事業所内での会議ごとには、全職員が管理者と共に理念を言うようにしている。	「住みなれた街、尼崎で家庭的な心温まるほのぼの空間」という理念のもと、会議で唱和し理念の共有を図っている。職員全員で介護方針を統一し、利用者が住民として、その人らしい暮らしができるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会での店で毎日、職員と入居者様が御一緒に買い物をしている。現在、老人会との交流が出来ていない為、今後交流が出来るように努めて行きたい。	春になると日当たりの良いホームの庭に、さつまいも作りと園芸で利用者と老人会の交流が始まる。クリーン作戦など地元町会にないため、今後、隣接町内会に顔を出したいと考えている。近隣の商店街へは日常的に買物に出かけている。小学校、中学校トライアルウイークなどの受け入れも考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議へ参加参加の声掛けとその報告また、当施設の新聞を毎月ご挨拶を兼ねて配布している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様、日々の状況や行事、研修報告を参加家族様へ情報提供することにより、日々サービス向上を目指し、ご意見などを聞かせて頂くことにより今後の施設運営に活かしている。	内科及び歯科医、地域包括、民生委員、家族等が参加し定期的開催している。事業所の実情報告と第三者評価についても報告している。利用者の外出への思いを家族や職員の協力のもと、年に一度でも実現できることをテーマに進めている。具体的には墓参りなど。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議時に地域包括の担当者様より今後の地域への取り組みや地域住民の方に対するサービス提供情報を頂き、施設が今後どのような事に取り組んでいくかへの参考にさせて頂いている。	尼崎市のグループホーム会議が3ヶ月に1回開かれる。市担当者と意見交換が出来ている。また必要に応じてその都度相談を行っている。市の窓口には定期的に訪問し、情報を伝えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体や言語などの身体拘束は全ての職員が「してはいけない事だ」と理解して日々、入居者様と生活をしている。玄関の施錠は時間的開放により現在は様子を見ているのが現状である。	職員は身体拘束について学び実践している。職員が無意識に言ってしまうがちな「ちょっと待って」等のことばの拘束も注意している。各フロアーの出入り口を安全のため施錠しているが、日中2～3時間は開放で庭に出ることが出来る。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が虐待防止の研修に行き随時、他の職員に指導している。	虐待防止の研修に出席した職員が、事例などを提案して内部勉強会を行っている。職員がストレスを溜めないよう声を上げて話すことが出来る環境を作る事、希望休も受け入れている。	

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進会議時に地域包括の方から頂いた情報を元に職員へは管理者から講義をしている。成年後見制度については今後、講習をする予定である。	成年後見制度の利用者が4名いる。関わりを通して職員、スタッフは学ぶ機会となっている。H24年度は成年後見制度講師を招き、地域住民や家族など地元町内会だけでなく、まわりの町内会にも参加を呼びかけたいと考えている。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族様へは改定等などがあつた際には回覧を作成にて報告をしている。また、面会時など家族様が訪問された時は必ず職員が施設運営やサービスに対してご不満などがないかお聞きさせて頂いている。	重要事項説明書、パンフレット、利用料金表をもとに、文書を分かりやすく説明し、理解と納得が得られるまで話し合うようにしている。改定があれば必ず回覧を作成して報告している。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に職員が必ずご家族様へ問題点などがないかお聞きさせて頂き何かあれば、施設長、管理者にすぐ報告する。その結果、運営に反映していくように努めている。	家族来訪時、職員は家族とのつながりを大事にし、色々な意見を伺える雰囲気作りに努めている。そこで出された意見は課題として運営推進会議に諮り、改善に努めている。又家族会・ご意見箱の設置をし、気軽に意見をいただけるよう働きかけている。	家族からより多くの意見が出るようにイベント等の際に、家族同士のみで過ごせる時間と場所を用意されるのも一つの方法ではないだろうか。
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、3回の会議を実施。その際に職員との意見交換や提案などを話す場を設けている。また、職員へのメンタルケアへの窓口も設けている。	リーダー会議、職員会議、フロア会議にて運営に関わる事等の意見交換を行っている。研修や資格取得の希望も受け、後日レポートを提出し職員会議で共有する。又サービス向上委員を作ったり、管理者は職員の悩みの相談の窓口も設け、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所での職員評価は管理者が常時、報告をする事により、代表者は理解している。また事業所でのやりがいについては全職員が意見が出来る環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は定期的に行い、各職員が質の向上を目指している。また現場でのケアについては、職員一人一人が問題点がある際には実践研修及びアドバイスをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	尼崎での他のグループホームと交流を深め、情報提供や相互訪問などを実施し日々、尼崎のグループホーム全体が質の向上を目指して。		

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々、入居者様への言葉の傾聴を行い、信頼関係を持ち、職員へ何でも言える環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様へは入居者様が状況変化があればすぐに報告している。またご面会時には職員から必ず現状報告をすることにより信頼関係を深く持つよう努力している。		
17] サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	職員が常に入居者様を観察して「何が必要か」を考え必要な際にはご本人様及びご家族様へ報告することにより、様々なサービスへの対応ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員へは「私たちは第二の家族」を理解して日々、生活へのお手伝いをしていくよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様へは情報提供だけではなくどんなお悩みやお困りがあれば、そのことに対して対応ができるのであればお答えができるように努めている。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者が以前からお付き合いされていたご友人などにも連絡を取り面会されるよう心がけている。野球好きな入居者と一緒に甲子園へ春の高校野球を観戦予定である。	散髪などの訪問理美容サービスもあるが、馴染みの美容院へ出かける利用者もある。利用者好みの外食希望により、馴染みの近隣のお店に職員も同行し、昔ながらの関係を支援している。土地柄熱心な野球ファンがいるため、甲子園球場への野球観戦にも出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コミュニケーションの際でも状況に応じて職員は一人だけの入居者様だけではなく全体を一つにした雰囲気作りに努め、皆様が常に支え合う環境づくりに努めている。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後でもご家族様への関係性を大切にしておいて、ご支援ができる場を設けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	全入居者様が当施設で過ごせる環境づくりを目指す中でご本人様本位の意向を尊重している。	現場の気付きを参考に、又居室担当者が一人ひとり個別の会話の中から思いや意向を汲み取るよう努めている。日常の生活で、快・不快を表情やしぐさなどから読み取り、無理強いせず寄り添うことを心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員がカルテでの情報を参考にして行動することで入居者様が不快にならぬよう支援の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の変化があった際には必ずカルテへの記入をする、また申し送りの徹底をしている。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	フロア会議にて毎月、入居者様の現状確認をすることにより「何が必要か？」職員が考え話し合い現在、必要としている計画作りにも努めている。	利用者、家族から意見を聞き取り、フロア会議でどのように介護計画に反映させるか、職員が意見を出し合って計画を作成している。3ヶ月毎に見直しをしているが、何かあれば随時見直しをしている	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様へ対しての気づきを常に持ち、変化があれば必ず記録に残して申し送りを行い、必要であれば計画の見直しを常にできるように心掛けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様、ご家族様のご希望があれば迅速な対応を行い、必要なニーズに応じたサービスの取り組みを実施している。		

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	皆様が昔から住み慣れている地域での生活なのでご本人様が目指すサービスの実施。またご本人様が満足される環境作りを目指している。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な往診及び受診を協力医院にて実施。またご家族様が必要と思う検査には常に対応できるように努めている。	家族支援で行きつけの医院に通院している利用者は1名である。その他は、月2回訪問診療を行う内科、胃腸科、外科担当の協力医をかかりつけ医としている。事業所の看護師が医師と連携し、夜間の相談にも応じてもらえるので医療的には安心の体制となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態観察を行なう中で異常があればすぐに看護師へ報告して迅速な対応が行なえている。また状況に応じて受診対応もしている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	施設近辺の病院でご家族様のご希望があれば入院時での状態観察、入院生活での対応は施設管理者が行なう体制も状況によっては対応している。	入院時は利用者が安心して適切な治療を受けられるよう見舞いに行っている。事業所の協力医が入院先病院の医師と連絡を取って治療状況を把握し、退院に向け調整を行っている。事業所は福祉用具などを準備して環境を整え、協力医と連携して利用者の早期退院を受け入れている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	何ができるか、何が必要かを常に職員で考えまた協力医院との情報を密にして必要な対応を行なっている。家族様は、施設への希望、求められる事にはできる限りお答えできる状況である。	入居時に、重度化指針やターミナル支援の同意書を取り交わしている。さらに状態悪化時には、その都度医師を交えて話し合いを重ねている。看取り介護をしたのは1名であるが、職員の意識を統一してチームケアが行えるよう勉強会を続けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを元にながかり、その資料を参考に迅速なる対応ができるよう職員には常に声掛けを行い、またシミュレーション実施もしている。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の消防訓練実施。その際には夜間帯を想定した訓練も行なっている。	夜間想定も含め、年2回消防署立会いの下での消防訓練を、利用者も参加して実施している。事業所前の商店街に訓練の通知はしたが、商売があり参加は望めない状態である。	運営推進会議の開催に合わせて訓練を実施し、災害時に周辺住民の協力が得られるきっかけを作られてはいいかがか。

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(18)		○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けにはチーム全体で気を配り、職員同士が注意できる環境作りの徹底をしている。	利用者の個々の思いを理解し、いかに受け止め大切にすることを心がけるようにしている。声かけには職員同士で特に注意し、プライバシーを損ねないよう努めている。	
37			○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お手伝いの中で最後には必ず「これでいいのか？」を必ず声掛け、ご本人様にご不満にならないように心掛けている。		
38			○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々、入居者様が「今日は何をされたいのか」をお聞きして、また職員が考え充実した一日が送れるような環境で作りを行なっている。		
39			○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装や一日の生活はご入居者へお聞きしてできる限り職員が対応できるように心掛けている。		
40	(19)		○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は必ずご入居者様と共に食事を摂取している。また、順番制での食器拭きなをお手伝いをして頂く環境である。	食事は業者に委託し半調理したものが配達されるが、野菜などの1品を手作りすることもある。メニューには利用者の好みを取り入れられ、刺身や寿司等の日もある。おやつや月1回の自炊の日には利用者とともに調理している。食事時間は利用者の好むBGMなどを流し会話を楽しんでいる。	
41			○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や食事量は日々記録をして状態観察している。また負担にならないような食事をされる環境作りを行なっている。		
42			○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	残存機能を活かしたサービスの実施を心掛けている。		

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排尿パターンを職員が「把握して」ご入居者様にあった排泄介助を行なっている。	チェック表から利用者個々の排泄パターンを把握し、さりげなく誘導している。利用者の自尊心に配慮して、排泄行動を直接表現ではなく別の言葉で伝え、しぐさなどにも注目し、トイレでの排泄支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬だけには頼らず、水分提供や運動の実施をおこない出来る限り、自然便が出るような対応を行なっている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご入居者の希望に応じた入浴対応を心掛けている。現在は週三回は最低入浴ができる体制である。	基本的に入浴は週3回とし、時間は午後としているが、利用者の希望を聞き柔軟に対応できる勤務体制としている。職員は入浴の機会を、利用者との信頼関係を築ける場所と時間であるとして認識し、コミュニケーションに努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人らしさを大切とした、生活を送って頂くようにする事が必要であり、午睡などご本人様が安眠できる環境を徹底している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬変更時は必ず、職員への報告、確認を徹底している。また各フロアーにもご入居者様一人一人のお薬ファイルも保管している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々、ご入居者様が楽しんで頂ける環境作りを心掛けている。また商店街での買い物は楽しみの一つある。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候にもよるが商店街での買い物などを定期的に行なっている。	事業所前がアーケード付きの昔ながらの商店街であり、利用者は日常的に好みの品を買いに出かけている。芝生が植えられた事業所の前庭は広く、歩行困難な利用者も積極的に戸外に出るよう支援している。今後は、利用者の希望にそった個別の外出を支援したいと考えている。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様から定期的に預かり金を頂き事務所管理にてご本人様のご希望時にはいつでもお使い出来る環境である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様のご希望されれば電話やお手紙を書いて頂ける環境作りの徹底をしている。またご家族様へのご理解もしてい頂いている。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を味わって頂くように行司等でご入居者様にご満足される環境作りを心掛けています。また掲示をする事で「楽しみ」も持たせていただいている。	芝生の前庭は広く、桜が3本、松が1本植えられ、木製のベンチが用意されゆとりの場所となっている。建物内は清潔で、庭に面する広いガラス戸からは明るい光が差し込み、暖かい季節には網戸で解放され、換気にも留意されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご入居者様が不快にならぬような状況作りを行なう中で一人一人の生活を送って頂くよう支援している。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室ではご本人様を使い慣れた生活用品を使って頂いている。またご本人様が何かが必要か？を職員と共に考え必要であればご希望により購入させて頂いている。	居室には利用者の馴染みの物を持ち込んでもらうよう勧め、それぞれ個性的な雰囲気である。持ち物の少ない利用者には、職員が小物を置くなどの配慮をしている。床にパットを敷き、布団で寝起きしている利用者もいる。	1階の床は特に冷えるので、上敷きや畳などの用意を家族と相談されてはどうか。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全を第一に考えているがご本人様のご希望されれば職員の支援の元、出来る限り自立した環境作りを目指している。		